

ARTS for HOPE

宮城チーム活動報告書 2014年9月17日



仙台・岡田児童館「ぶらぶら筆」

普通の筆の長さなら、自分の思うような線が自在に描けるのですが、用意した長い棒の先についている筆に、描きたい方向を伝えるのは至難の業。でも、その《予想もしない動き》が、面白さを醸し出すのですね。

ゆわんゆわん、ぶらんぶらん、と、筆を動かしては、それを楽しんでいる子どもたち。最初は、自分の名前を書いてみて、不自由さを友達同士で確かめあったりもしています。

次第にその愉快さに目覚めたのか、ドロッピングを始める子もいます。いろいろな色でできた画面に、《白》のドロッピングの雫のあとがカッコイイと気がつくと、アッというまに、「白の絵の具、もっとちょうだい！」と、やりたい人が続出です。はじめは、チューブから出した単色が紙カップのなかにあったのですが、子どもたちはそれにあきたらず、絵の具の色を調合し、自分好みの色をつくりだして、また制作に精を出す結果に。誰かが手のひらで画面に手形をつけたのをきっかけに、絵の具の画面の上を滑る子どもたちの歓声が上がり！ あの子もこの子も、ロールの紙の上のひととなって、はしゃぎ声のこだまする遊戯室となってしまいました。

《本当は、ぶらぶら筆で遊ぶだけだった》はずなのにと、スタッフは思ったのですが、「この夏最後のエネルギー発散お絵描きができてよかったんですよ」と、子どもたちの味方になってくれた先生たちの言葉。本当にありがとうございました。おしまいの手足の

汚れ落としは、ちょっとお水が冷たかったけど、子どもたちの、思いっきりやりつくしたみんなの笑顔がいっぱいでした。

